

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要					
建物名称	(仮称)紫竹山7学生寮新築計画				
建設地	新潟県新潟市中央区紫竹山7丁目221-47				
用途地域	第一種住居地域、法22条指定区域				
建物用途	集合住宅				
竣工年	2021年3月 竣工				
敷地面積	1,977.83 m <sup>2</sup>				
建築面積	1,070.77 m <sup>2</sup>				
延床面積	2,791.91 m <sup>2</sup>				
階数	地上3F				
構造	木造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2020年5月1日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52.5}{63.8} = 0.8$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 3.0		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 2.3		節水	LR2.1.1	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。					

# CASBEE 新潟

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)紫竹山7学生寮新築計画	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市中央区紫竹山7丁目221-47	構造	木造
用途地域	第一種住居地域、法22条指定区域	平均居住人員	100人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 竣工	評価の実施日	2020年5月1日
敷地面積	1,978 m <sup>2</sup>	作成者	(株)国際総合計画
建築面積	1,071 m <sup>2</sup>	確認日	2020年5月1日
延床面積	2,792 m <sup>2</sup>	確認者	(株)国際総合計画



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 2.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> バイパスに面した敷地で南面に住宅がある為、騒音と採光に配慮し、コ字型配置とした。地盤面も道路より50cm程高くし水害等に備えた。	外装は素材感を大切にし、周囲との調和と住民との融和を考慮した設計とした。	<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 各住戸大きな引違い窓を設け、自然採光、換気につとめた。またガラスは熱線吸収ガラスとし省エネに配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 地盤調査により安全な基礎方式を採用した。木造軸組構造で仕口、継手は堅ろうで復元力のある建物とした。床下換気、外壁通気とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 周辺の民家との調和をはかり、住民に馴染みやすい色調とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 照明ランプは全てLED(寿命の長い物)とし、共有部は人感センサーとし無駄な消費を控える。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 持続可能な森林から産出される木材を最大限使用する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物周辺には可能な限り植込みを設ける。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される